

「おやじの会」

知っていますか？



毎年8月初旬の夕暮れどきに行う「港小学校区地域交流会」。港小学区おやじの会のメンバーを中心に、今年も炎天下の昼下がりに準備。

～ふりかえったときに見守ってくれているひとがいる～ それが地元の「おやじ」だっていいじゃないか

「おやじの会」は、30年程前に日本各地で誕生しました。かつてPTA活動は母親を中心とした活動になりがちでした。いじめや学級崩壊が社会問題になり、「もっと子育てや教育環境の改善に父親が関わろう!」と、各地の父親たちが立ちあがったのです。

高浜市では平成13年度に港小学校に「おやじの会」が誕生しました。大阪の小学校での痛ましい事件がきっかけであったといいます。「港小学区おやじの会」は今でも活動が続き、ほかの小学校区にも影響をあたえています。

始まりは校庭トイレのペンキ塗り

立上げから関わる初代会長の山口清隆さん(田戸町)と現副会長の神谷環光さん(二池町)に聞きました。

「昔から、港小学区は働く母親が多く、両親揃って学校行事に出るなんてことがない家庭が多かったんです。ただ、そのために、地域のみんなで子どもの面倒をみるような土地柄でもありません。今はまちづくり協議会ができましたが、基礎になる『地域』のことは地域で」という『地域自治』の素地のような面がこのあたりはもともとあったと思います。」

「当時の港小学校長の島田強さんがPTA会長やOBに声をかけたのが始まりです。平成12年に大阪の附属池田小学校で侵入者に児童が襲われる事件があったあと、多くの学校が門に鍵をかけ外部を遮断するようになりました。でも、私たちは、逆に学校に『地域の眼』を入れて、大人たち皆でもっと児童を見守るようにする方が本当の意味で効き目があると思ったのです。『おやじの会』が手始めに行ったのは、校庭のトイレやジャンブルジムのペンキ塗り。学校でお父さんたちが作業する姿は新鮮だったと思います。こども会も港キッズクラブにして、地域活動に参加しやすく変化しました。」